

2005 年 第 78 回日本産業衛生学会（東京）

ベトナムメコンデルタ地域の参加型安全衛生トレーニングコースの成果と国際的波及

特定非営利活動法人 東京労働安全衛生センター 仲尾豊樹  
カント省労働衛生環境センター トン・タット・カイ

【目的】2000 年 8 月から 2005 年 1 月にベトナム社会主義共和国カント省において、参加型安全衛生トレーニングコース（Participatory Action Oriented Training=PAOT）が企画され、それぞれ 4 回のトレーニングコースとフォローアップがベトナム、韓国、タイ、日本人が参加して行なわれた。カント省労働衛生環境センター（ECHO）、（財）労働科学研究所と NPO 法人東京労働安全衛生センターが事務局を担った。その目的は、1）メコンデルタ地域のすぐれた参加型安全衛生活動を学ぶ。2）各国の経験を交流する。3）参加者の活動に活かす、ことであった。

【方法】トレーニングは 6 日間で、一日目が参加型安全衛生活動の理論学習。二日目が農村でのアクションチェックリストを用いたよい事例の収集。三日目が WIND（Work Improvement in Neighbourhood Development = 農村参加型労働生活改善トレーニング）の準備。四日目、五日目が WIND トレーニング。六日目が経験交流と修了式である。本トレーニングは、農民が WIND を通じて安全衛生活動を学ぶことと、参加者が WIND を通じて参加型活動トレーナーの実際を学ぶという、両面性をもつユニークなプログラムであり、5 つの点が強調されていた。1）メコンデルタ地域の参加型安全衛生活動の実践。2）個人の自律的な参加。3）WIND トレーニング企画・運営への参画。4）トレーニングパッケージ（トレーニングマニュアル、アクションチェックリスト、よい改善事例）とグループ討議の重視。5）農民とトレーナーの双方向の交流、である。

【結果と考察】トレーニングコースは 2000 年 8 月、02 年 3 月、03 年 8 月、04 年 8 月に、フォローアップは 01 年 10 月、02 年 11 月、03 年 11 月、05 年 1 月に行われた。トレーニング後必ずフォローアップをすることでトレーニングを通じて作られた改善計画の実行が確認でき、継続的なトレーニングと改善活動が保障されることとなった。4 年間のトレーニングの参加者はのべ 75 名（日本 49 名、ベトナム 14 名、タイ 7 名、韓国 5 名）、フォローアップ参加者はのべ 17 名（日本 16 名、韓国 1 名）であった。

トレーニングは S 共同農場で行なわれた。この農場では WIND が 2000 年から実施され、4 回のトレーニングに参加した農民は 34 家族 68 名であった。ECHO の定期訪問と 4 回のフォローアップを通じ、03 年 11 月までに 3070 件の改善が収集された（物の保管と移動 512 件、ワークステーション 556 件、機械と設備の安全 264 件、有害作業環境の改善 527 件、作業編成 661 件、福利厚生 550 件）。

トレーニング修了後、参加型安全衛生活動を実行・紹介した参加者は 37 名（54%）である。その内容は 1）参加型安全衛生トレーニングの実施（韓国での PAOAP（Participatory Action

Oriented Approach Program)ワークショップの継続的開催 4回、当センターによる東京労働安全衛生学校の開催 5回、タイ・カンボジアでの参加型活動支援 02年、2) 参加型安全衛生ネットワークの形成(ハノイでの参加型安全衛生活動アジア地域会議の開催 03年、メーリングリスト APIEL 01年 と参加型安全衛生ネット=ASIA WIN-NETの運営 03年)、3) 学生による大学内や国際交流学生組織でのトレーニングの紹介、4) 本トレーニング運営活動等への協力であった。

【結論】メコンデルタ地域での国際参加型労働安全衛生トレーニングでS共同農場の労働生活改善活動が促進され、6つの分野で合計3070の改善が実現された。同時にトレーニング修了者によるアジア地域での安全衛生ネットワークが形成されWEBサイトを利用した情報交流が進むと共に、各国の特徴を活かした参加型安全衛生活動が実施された。本トレーニングはアジアの参加型安全衛生活動の発展に、草の根レベルで大きく貢献した。